

1. ついで主はモーセに告げて仰せられた。
2. 「アロンとその子らに告げよ。
イスラエル人の聖なるものは、わたしのために聖別しなければならない。
彼らはわたしの聖なる名を汚してはならない。
それは彼らがわたしのために、聖なるものとすべきものである。わたしは主である。
3. 彼らに言え。
代々にわたり、あなたがたの子孫のだけれが、
イスラエル人が主のために聖別した聖なるものに
汚れたままで近づくな、その者は、わたしの前から断ち切られる。わたしは主である。
4. アロンの子孫のうち、
ツアラアトの者、または漏出のある者はだれでも、きよくなるまで聖なるものを食べてはならない。
また、死体によって汚されたものに触れる者、精を漏らす者、
5. あるいはすべて人を汚す、群生するものに触れる者、
または、どのような汚れでも、人を汚れさせる人間に触れる者、
6. このようなものに触れる者は、夕方まで汚れる。
その者は、からだに水を浴びずに、聖なるものを食べてはならない。
7. ただし、日が沈めば、彼はきよくなり、その後、聖なるものを食べるができる。
それは彼の食物だからである。
8. 自然に死んだものや、野獣に裂き殺されたものを食べて、汚れてはならない。わたしは主である。
9. 彼らがわたしの戒めを守るなら、彼らが、これを汚し、そのために罪を負って、死ぬことはない。
わたしは彼らを聖別する主である。
10. 一般の者はだれも聖なるものを食べてはならない。
祭司と同居している者や雇い人は、聖なるものを食べてはならない。
11. 祭司に金で買われた者は、これを食べるができる。
また、その家で生まれたしもべも、祭司のパンを食べることができる。
12. 祭司の娘が一般の人と結婚したなら、彼女は聖なる奉納物を食べてはならない。
13. 祭司の娘がやもめ、あるいは離婚された者となり、
子どももなく、
娘のときのように再びその父の家に戻っていれば、その父の食物を食べることができる。
しかし、一般の者はだれも、それを食べてはならない。
14. だけれが、あやまって聖なるものを食べるなら、
それにその五分の一を足して、その聖なるものを祭司に渡す。
15. イスラエル人に、その主に奉納する聖なるものを汚し、
16. 聖なるものを食べて、その罪過の咎を負うようにさせてはならない。
わたしは彼らを聖別する主だからである。」
17. ついで主はモーセに告げて仰せられた。

18. 「アロンとその子ら、またすべてのイスラエル人に告げて言え。
だれでも、イスラエルの家々の者、またはイスラエルにいる在留異国人がささげ物をささげ、
誓願のささげ物、あるいは進んでささげるささげ物として、全焼のいけにえを主にささげるなら、
19. あなたがたが受け入れられるためには、
それは牛、羊、あるいはやぎのうちの傷のない雄でなければならない。
20. 欠陥のあるものは、いっさいささげてはならない。
それはあなたがたのために受け入れられないからである。
21. また、人が特別の誓願を果たすため、
あるいは進んでささげるささげ物として、
牛か羊の中から和解のいけにえを主にささげるときは、
それが受け入れられるためには傷のないものでなければならない。
それにはどのような欠陥もあってはならない。
22. 盲目のもの、折れたところのあるもの、傷のあるもの、あるいは、うみが出るもの、
湿疹のあるもの、かさぶたのあるもの、あなたがたはこれらのものを主にささげてはならない。
また、これらのものを主への火によるささげ物として祭壇の上にささげてはならない。
23. 牛や羊で、足が伸びすぎているか、またはなえ縮んだものは、
進んでささげるささげ物とすることはできるが、誓願のささげ物としては受け入れられない。
24. あなたがたは、こうがんの押しつぶされたもの、砕けたもの、
裂かれたもの、切り取られたものを主にささげてはならない。
あなたがたの地でそのようなことをしてはならない。
25. また、あなたがたは、
外国人の手から何かこのようなものを受けて、あなたがたの神のパンとしてささげてはならない。
これらのものはそこなわれており、欠陥があるから、あなたがたのために受け入れられない。」
26. ついで主はモーセに告げて仰せられた。
27. 「牛か羊かやぎが生まれたときは、七日間、その母親といっしょにしておく。
八日目以後、それは主への火によるささげ物として受け入れられる。
28. しかし、牛でも、羊でも、それをその子と同じ日にほふってはならない。
29. 主に感謝のいけにえを捧げる時は、
あなたがたが受け入れられるように、それを捧げなければならない。
30. その同じ日にこれを食べ、朝までそれを残しておいてはならない。わたしは主である。
31. あなたがたは、わたしの命令を守り、これを行なえ。わたしは主である。
32. わたしの聖なる名を汚してはならない。
むしろわたしはイスラエル人のうちで聖とされなければならない。
わたしはあなたがたを聖別した主である。
33. あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から連れ出した者、
わたしは、主である。」

説教

レビ記 22 章は「神さまへのささげ物」についての教えです。1~16 節ではささげられた物を祭司がどのように与るかが、17~25 節では祭司を含めたイスラエルの民がどのような物を神さまにささげるべきであるかが、各々教えられます。最後に 26~30 節ではやはりささげ物に関して別の細かい規則が教えられて、次のように結論が語られるのです。

- 3 1. あなたがたは、わたしの命令を守り、これを行なえ。わたしは主である。
- 3 2. わたしの聖なる名を汚してはならない。
むしろわたしはイスラエル人のうちで聖とされなければならない。
わたしはあなたがたを聖別した主である。
- 3 3. あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から連れ出した者、
わたしは、主である。」

つまり、神さまの「命令を守り、これを行な」って、みことばの通りに神さまへのささげ物をきちんと聖別してささげることが、神さまを聖として、神さまの御名の栄光をあらわすことになる、というのでした。

21 章では祭司として奉仕する資格と祭司としてのあり方が教えられました。祭司が祭司として、どんな時にも、自らの使命と責任をしっかりと自覚して生きてこそ、祭司はイスラエルに神の栄光をあらわすことができ、イスラエルは祭司の王国としてこの世界に神の栄光をあらわすことができるからです。

そして、続く 22 章では「神さまへのささげ物」について教えられます。「神さまへのささげ物」は「聖なるもの」と呼ばれ、神さまはこの聖なる「神さまへのささげ物」を通して、イスラエルに御名の栄光をあらわされます。イスラエルの民は、聖なる「神さまへのささげ物」を通して、自らの罪が贖われ、罪が赦され、神さまと親しく語らうことができるようになるのです。要するに、イスラエルの民は「神さまへのささげ物」を通して神の栄光を見ることができるとのことです。

そして、こうした神の栄光をあらわす働きを担うのが祭司です。祭司は「神さまへのささげ物」を通して養われます。そうして、神の栄光をあらわす働きを全うすることができます。つまり、神さまは「神さまへのささげ物」を通してイスラエルにご自身の栄光をあらわされるのです。それ故、イスラエルは「神さまへのささげ物」を聖別する必要がありました。「神さまへのささげ物」をきちんと聖別してこそ、神さまは「イスラエル人のうちで聖とされ」、ご自身の御名の栄光を力強くあらわしてくださるからです。

3~16 節では「聖なるもの」にあずかることのできる者が規定されます。まず、祭司でない「一般の者はだれも聖なるものを食べてはならない」(10)と教えられ、祭司の中でも汚れた者が「聖なるもの」を食べるなら、「わたしの前から断ち切られる(つまり殺される)」と教えられます(3)。

いけにえのうち祭司の取り分である「聖なるもの」とは、具体的には、「全焼のいけにえ」に於いてはその皮が(7:8)、「穀物のささげ物」に於いては一つかみの小麦粉を除いて残り全部が(7:9,10)、「罪のためのいけにえ」と「罪過のためのいけにえ」に於いては脂肪と腎臓と血を除いた残り全部が(7:6)、そして、「和解のいけにえ」に於いては胸肉と右のもも肉が、祭司の受ける分として祭司に分配されました(7:31~34)。これらは「聖なるもの」と呼ばれ、穀物にしても肉にしても最も良い物と呼ばれます。つまり、イスラエルの最上の物、一番良い物が、祭司に与えられたのです。神さまの働きをする祭司に、神さまはイスラエルの一番良い物を与えて、彼らとその家族を養われたのです。これらは一度神さまにささげられ、神さまのものとされた後に、祭司に与えられました。「その肉に触れるものはみな、聖なるものとなる。」(6:27)このみことばの通り、全イスラエルの罪を背負った祭司は、神さまにささげられたいけにえの肉を食べることによって、罪を贖われ、聖とされて、彼の背負ったイスラエルの民全

員の罪も贖われます。それは人々の罪をきよめていのちをもたらす、まさにいのちの糧と言うべきものでした。このように、いけにえは、祭司のいのちを文字通り養うと同時に、祭司と全イスラエルに罪の贖いと永遠のいのちをもたらす、いのちの糧でした。いけにえが、祭司にもイスラエルにもいのちをもたらすのです。

このため、これを食べる祭司も慎重を期さねばなりません。まず、「ツアラアトの者」、「漏出のある者」は、きよくなるまで聖なるものを食べてはならず、「死体によって汚されたものに触れる者」、「精を漏らす者」、汚れた「群生するものに触れる者」は、日没後に沐浴してから食べることが許可されました(4~7)。祭司と同居しているからといって食べることが許されるわけではなく、あくまで祭司とその家族、それにその家の奴隷だけが食べることが許されました(10~11)。祭司の娘が一般人と結婚してしまえば、もはや食べることは許されず、しかし、出戻りとなれば、再び祭司の娘として扱われて、聖なるものを食べることが許されました(12~13)。こうして、聖なるものを聖別したのです。

人々が神さまのためにささげて神さまのものとなった「聖なる」ささげ物にあずかる祭司は、それが自分のものになったからといって何でもありで自由に使ったのではなくて、イスラエルの最上の糧で養われる喜びと感謝をもって、それをあずかる者にふさわしく、自らを聖別して、きちんとみことばに示された通りに、正しく、秩序正しくそれにあずかって生活したのです。

続く 17~25 節には、聖なるものをささげる者たちの心構えが教えられます。

19. あなたがたが受け入れられるためには、
それは牛、羊、あるいはやぎのうちの傷のない雄でなければならない。
20. 欠陥のあるものは、いっさいささげてはならない。
それはあなたがたのために受け入れられないからである。

これによると、どのようなものであれ、「欠陥のあるもの」は一切神さまにささげてはならず、「傷のない」ものをささげなければなりません(20)。

21. また、人が特別の誓願を果たすため、
あるいは進んでささげるささげ物として、
牛か羊の中から和解のいけにえを主にささげるときは、
それが受け入れられるためには傷のないものでなければならない。
それにはどのような欠陥もあってはならない。
22. 盲目のもの、折れたところのあるもの、傷のあるもの、あるいは、うみの出るもの、
湿疹のあるもの、かさぶたのあるもの、あなたがたはこれらのものを主にささげてはならない。
また、これらのものを主への火によるささげ物として祭壇の上にささげてはならない。
23. 牛や羊で、足が伸びすぎているか、またはなえ縮んだものは、
進んでささげるささげ物とすることはできるが、誓願のささげ物としては受け入れられない。
24. あなたがたは、こうがんの押しつぶされたもの、砕けたもの、
裂かれたもの、切り取られたものを主にささげてはならない。
あなたがたの地でそのようなことをしてはならない。
25. また、あなたがたは、
外国人の手から何かこのようなものを受けて、あなたがたの神のパンとしてささげてはならない。
これらのものはそこなわれており、欠陥があるから、あなたがたのために受け入れられない。」

このように、自分の余り物、自分の必要としない物、不要品、傷もの、捨てるべきもの、簡単に言ってしまえば

ゴミ、ここでは(動物のことですから)生ゴミを神さまにささげてはならない、というのです。

「子は父を敬い、しもべはその主人を敬う。

もし、わたしが父であるなら、どこに、わたしへの尊敬があるのか。

もし、わたしが主人であるなら、どこにわたしへの恐れがあるのか。

—万軍の主はあなたがたに仰せられる。—

わたしの名をさげすむ祭司たち。

あなたがたは言う。

『どのようにして、私たちがあなたの名をさげすみましたか。』と。

あなたがたは、わたしの祭壇の上に汚れたパンをささげて、

『どのようにして、私たちがあなたを汚しましたか。』と言う。

『主の食卓はさげすまれてもよい。』とあなたがたは思っている。

あなたがたは、盲目の獣をいけにえにささげるが、それは悪いことではないのか。

足なえや病気のをささげるのは、悪いことではないのか。

さあ、あなたの総督のところにそれを差し出してみよ。

彼はあなたをよみし、あなたを受け入れるだろうか。——万軍の主は仰せられる。——

(マラキ書 1:6-9)

こうして、いけにえをささげる側もそれに与る側も、みことばに従って、各々自らを聖別せねばなりません。それを怠る時には、神さまの「聖なる名を汚す」と言われます。すなわち、祭司がいい加減にささげ物を扱い、人々がいい加減なささげ物を神さまにささげる時に、聖なる神さまの御名が汚されるということなのです。神さまは聖なるお方です。たとえ全ての人間が墮落して生きていても、しかし、神さまは聖なるお方です。

天に於いては神さまの御名の栄光がいっぱいにあらわれているのに、この地上に於いてもそれをあらわさなければならぬのに、異邦人によって汚されて地に落ちている神の御名の栄光を、祭司が、イスラエルがあらわさなければならぬのに、彼らがあらわさなければ、誰もあらわす者がいないのに、それを、ささげ物をささげる者はいい加減で、それにあずかる者も自分勝手に生きていたら、聖なる神さまの名は汚されたままです。

反対に、みことばの通りに、祭司がささげ物に正しく与り、人々が最善のささげ物を捧げる時に、神さまの「聖なる名」の栄光はあらわれます。神さまはご自身の御名の栄光を力強くあらわしてくださいませ。そして、その時、神さまはイスラエル人のうちで聖とされる、と言われます。それは、いけにえを聖別する時です。人々が最善のいけにえを神さまにささげて、祭司がそれに正しくあずかり、すべてみことばの通りに行う時に、イスラエルのうちで神さまは聖とされ、神さまの御名の栄光があらわれ、祭司も人々も、共に神の栄光を見るのです。

いけにえを聖別する時に、です。いけにえが肝心です。いけにえを神さまのために正しくささげ、正しく用いる時に、イスラエルは神の栄光を見るのです。いけにえが人々にいのちをもたらすのです。

今日、私たちは、全焼のいけにえも、罪のためのいけにえも、和解のいけにえもささげる必要はありません。何故なら、キリストが罪のためのいけにえとして、私たちの身代わりに十字架の上で屠られてくださったからです。キリストこそ聖なるいけにえです。聖なるものです。そして、和解のいけにえとして、私たちの罪を贖い、私たちにいのちをもたらすいのちの糧(いのちのパン)となってくださいました。ですから、キリストにより救われた私たちは、救われるためだけでなく、救われた喜びと感謝をもって、感謝のいけにえを神さまにささげなければなりません。

キリストのいのちの糧にあずかる兄弟姉妹みなさんが、救われた喜びと感謝をもって、神さまにいけにえをささげて、神の栄光をあらわすことができるよう祈ります。